

第2章 年間指導計画の作成 【解説P62～68】

第1節 年間指導計画の基本的な考え方

1. 年間指導計画とその構成要素

年間指導計画は、学年や学級において、その年度の総合的な学習の時間の学習活動の見通しをもつために1年間の流れの中に単元を位置付けて示すものである。どの時期に、どれくらいの時間をかけて、どのように学習活動を展開するのか、またその活動を通して、どの程度まで生徒の学びを高めたのかということについて、1年間にわたる具体的な生徒の学習の様子を思い描きながら構想を立てるようにしたい。

年間指導計画には特に固定的な様式はないが、総合的な学習の時間が一層豊かなものになるように、各学校が実施する教育活動の特質に応じて必要な要素を盛り込み、活用しやすい様式に工夫して表すことが大切である。その際、各学校が作成する全体計画に示された目標及び内容、資質・能力・態度との関連性に十分配慮することが重要である。

年間指導計画には様々な様式があるが、そこに含まれる基本的な構成要素としては、単元名、各単元における主な学習活動、活動時期、予定される時数などがある。これらの要素に加えて、単元のねらい、生徒の意識、各教科等との関連、外部講師や異校種との関連などを記す場合もある。

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
総合的な学習の時間	小学校での総合学習の報告会をしよう (4h) ・小学校で行った総合学習の内容を一人ひとり発表して情報交換をする		地域の環境について関心をもとう (16h) ・地域と山の両方を探訪し自然の様子を観察する ・外部講師を招き、ごみ、生活排水、大気環境、水生生物について学ぶ ・地域環境の実態調査を行う			環境問題を追究しよう (20h) ○個人で課題を設定し、追究活動を行う ・水質汚濁 ・ゴミとリサイクル ・地球温暖化 ・CO ₂ とオゾン層 ・生活と環境破壊等 ○追究のまとめを行う ・追究の成果をレポートにまとめ、その成果を関係機関に送り意見を頂く					地域でできることを見付けよう (10h) ・市域で出来る環境運動を考え、グループ単位で活動する ・地域で実際に活動を行っているグループと協力し、地域の方の思いに触れる ・学年発表会を開き活動の成果を他学年や保護者に伝える		
	単元名、主な学習活動、活動時期、予定される時数の注釈												

図1：年間指導計画の構成要素

2. 年間指導計画における時数配当の考え方

各学年に配当された総合的な学習の時間数は、学校教育法施行規則の別表に1に示されたとおり第1学年においては50単位時間、第2学年及び第3学年においては70単位時間を上回るように計画する必要がある。この時数を確保した上で、各単元の実施に必要なと見込まれる時間数を配分することになる。

その際、年間を通じて毎週1ないし2時間を確保して継続的に実施するものや、発表会や地域での調査活動などのように活動に応じて集中的に実施するもの、さらに複数の学習活動が平行して行われるものなど、各学年や学級で実施しようとする学習活動の特質に応じて、時数を配当することになる。いずれの場合にも、当該学年の教育課程全体を視野に入れつつ、予定される学習活動を実施するために必要な時数を配当することが重要である。

3. 年間指導計画における単元配列の考え方

年間指導計画において単元を配列する際には、下の図2のようないくつかのパターンがある。配列する際の工夫としては、例えば、前ページの図1のように複数の単元の間には何らかのまとまりや主題性をもつようにすることが挙げられる。それは、単元と単元が活動や生徒の意識の流れにおいて一定の連続性を持ち、場合によっては連なって展開されることで、活動の見通しをしっかりとって、探究に取り組むことができる等、学びを深め、生徒の学習意欲を高める効果が期待できるからである。

これらの他にも様々なパターンがあり、それぞれに特徴が認められる。充実した総合的な学習の時間を計画するために工夫を凝らしながら作成することが望まれる。

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
分散型	■			■			■			■		
年間継続型	■											
集中型	■			■			■			■		
複合型	■ (学年)						■ (学級)					

図2：単元配列のパターン例

①分散型

総合的な学習の時間の単元を学期ごとなどいくつかの期間に分けて配列するものである。このとき、単元ごとに取り扱われるテーマが異なる場合が多い。

②年間継続型

1年間を通じて同じテーマで継続的に取り組むものである。ただし、年間を通じて取り組む場合でも、活動には必ずと一定のまとまりがあり、まとまりごとにいくつかの単元に分かれることもあることに留意したい。

③集中型

季節や地域の行事などを中核にしてある期間に集中的に取り組むものである。その期間は、総合的な学習の時間を中心として学校生活が組織される場合もある。

④複合型

学年単位の活動と学級単位の活動など、異なる学習形態や学習集団などを組み合わせて取り組むものである。

【学習活動を具体的に示した年間指導計画事例】

①分散型

図3は、前期と後期に分け、期ごとに異なるテーマの単元を実施する第3学年の年間指導計画であり、単元名、単元目標、主な学習活動、活動時期、予定時数が記載されている。前期は「国際」、後期は「生き方」がテーマである。

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
総合的な学習の時間	<p>「世界の今と未来をみつめよう —15年後の未来」(40時間) [国際]</p> <p><目標>これまでの成長を振り返り、経済、環境、食料、エネルギーなどの視点から15年後の世界の問題を自分の成長と関係付けてとらえる。</p> <p><主な学習活動></p> <ul style="list-style-type: none"> ・過去15年間の世界の変化について、新聞や読み物、TV番組などから理解し、その背景を考える。 ・自分たちの将来に大きな影響を与える諸問題について、その最前線にいる方から学ぶ。(食料自給、国際紛争、資源獲得競争、グローバルな競争、環境技術など) 						<p>「人から自分へ —自分らしく生きるとは？」(30時間) [生き方]</p> <p><目標>様々な人との出会いを通して自分という存在を見つめ、自己理解を図る。</p> <p><主な学習活動></p> <ul style="list-style-type: none"> ・尊敬する人物を調べよう ・夢を実現させた人の話を聞き、その生き方に学ぼう。(ホスピスケアを考える会の〇〇さん、絵本作家の〇〇さん) ・中学時代の自分を見つめ、将来や卒業後の自分の目標や生き方を考える。 ・将来に生きる卒業研究に取り組もう。 					

図3：分散型の年間指導計画の例（第3学年）

②年間継続型

図4は、「ICTで未来の福祉を切り開こう」という年間を通したテーマで、1年間継続して実施する第1学年の年間指導計画である。

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
総合的な学習の時間	<p>「ICTで未来の福祉を切り開こう」(50h)</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>情報社会の問題点を探ろう (18h) → もう一つの現代的課題「福祉」を解決するには？ (18h) → ICTで福祉問題の解決策を提案しよう！ (12h)</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ○課題設定 ○事前研究 ・ネット社会の落とし穴 ・電子マネーと私たちの生活 ・メディア情報の信頼性 等 ○福祉体験学習 ○問題状況の把握 ・QOL(Quality of Life)とは？ ・一人ひとりのニーズに応じる福祉 ・介護ロボット、人口発話機 ○発表準備 ○まとめ 											

図4：年間継続型の年間指導計画の例（第1学年）

③集中型

図5は、職場体験活動を中心的な体験活動に位置付けて、集中的に探究的な学習を展開する年間指導計画である。

月	8	9	10	11	12	
総合的な学習の時間			<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> コース別職場体験の依頼をしよう⑦ 業調べ⑦ 働くことの意味と自分の将来について考えよう⑩ </div>	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> 職場体験活動18 </div>	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> 職業や社会生活について様々な人にインタビューしてまとめよう⑫ </div>	

図5：集中型の年間指導計画の例（第2学年）

④複合型

図6は、単元によって、学年や学級など、活動を展開する学習集団や学習形態が異なる年間指導計画である。上段が学年全体で取り組む単元、下段は学級ごとに取り組む単元である。この他にも一人一課題で取り組む単元や異学年で取り組む単元などが考えられる。

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
総合的な学習の時間	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> 学年テーマ 学年テーマ「めざせeco社会」(38時間) 学年全体でテーマに沿った個人課題を立て、課題解決の学習を行う。9月に全校発表会を行い、成果を関係機関や全校生徒に披露し、意見を課題追究にフィードバックする。 </div>											
	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> 学級テーマ 学年テーマ「地域防災の取組を考え、提案しよう」(32時間) ・学区内の地震災害を最小限に食い止めるため、民生委員のAさんに話を聞き、自分たちにもできる取組を考える。 ・独居老人用の非常持ち出し袋を考えて作り、地域に配布する。 </div>											

図6：複合型の年間指導計画の例（第3学年）

第2節 年間指導計画作成上の留意点と具体例

年間指導計画においては、時間軸に沿って単元を配列し、学習活動の一年間の概要を明示することがポイントとなる。その際、学習活動に関する細かな計画は単元計画で記載するため、年間指導計画では、単元の実施期間を概略的に示したり、主な学習活動をいくつかに絞って箇条書きにして示したりするなど、簡潔な記述となるように工夫したい。

次に示す7つの留意点は、『中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編』に示された年間指導計画作成上の留意点であり、これらの点を配慮しつつ、年間の学習活動のイメージをつくることのできる簡潔な年間指導計画を作成したい。

(1) 生徒の学習経験に配慮すること

生徒のこれまでの学習経験やその経験から得られた成果について事前に把握し、それらを生かしながら年間の指導計画を立てる必要がある。例えば、第1学年の場合には、小学校での経験や成果等を、第2学年や第3学年の場合には、前年度の学習活動や成果等を把握しておくことが大切である。

【学習の履歴を明らかにした事例】

図7は、同一の学年、すなわち同一の生徒についての学びの履歴を表したものである。当該学年以前の学習経験を把握するために、学びの履歴を年間指導計画に加えることは、それまでの経験や成果を無駄なく生かすという点で有効である。

このような年間指導計画は、保護者や生徒の進学先の高等学校など、外部の関係者に対する情報提供の資料としても有益である。

		総合的な学習の時間													
実施年度	学年	4月			5月			6月				7月			8月
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	
平成21年度	第1学年 (50h)	●総合学習ガイダンス (6h) ・総合学習の目標、主な活動について話し合う。				●地域を知り、「青山のよさ」を発信しよう (14h) ・地域探訪を通して新しい目で地域を見つめ、ふるさとの価値を再発見する。 ・基本的な情報メディアの特性について調べ、目的に応じた媒体を選んで地域紹介に生かす。									
平成22年度	第2学年 (70h)	●尊敬する人物を調べよう (12h) ・各方面で活動している人について話し合う—「尊敬する」とはどういうことか？ ・「人のために奉仕する人」「世界で活躍する人」「地域で活動する人」など尊敬する人について個人追究する。						●自分の生き方に誇りをもつ人に会い、その人に学ぼう (16h) ・個人追究で調べた人物をクラスで発表し、様々な生き方を学ぶ。 ・生きることと職とが密接に結びついている人や、職業以外の分野で自分の生き方をつかんでいる人に会う。							
平成23年度	第3学年 (70h)	●日本の文化・芸術・科学・産業・経済などを調べ、視野を広げよう (14h) ・古代から現代に至る日本の文化や他文化受容、最先端の科学技術開発など、自己の課題を設定し、追究する。						●世界とのつながりの中でこれからの「NIPPON」の在り方を考えよう (14h) ・選んだテーマを「世界とのつながり」の視点から見直し、将来の日本の在り方を展望する。							

図7：4年間の学びの履歴を記載した資料の例

(2) 十分な見通しを持った周到な計画にすること

年間指導計画は、前年度の適当な時期に次年度の計画を検討し、実践の事実に応じて成果や課題などに応じて修正を加えることが求められる。その際、実施時期は適切であったか、時数の配当に過不足はないかなどについて、学年間のつながりにも目を向けながら、内容、資質や能力及び態度などを中心に見直し、見通しをもって4月を迎えることが大切である。

【学年間の関連を明らかにした事例】

図8は、当該年度の第1学年から第3学年までの各学年の年間指導計画を1枚の表に書き込んで示すことで、学年間の関連を明らかにしたものである。このような資料により、その年度の全校生徒が行っている総合的な学習の時間の取組を俯瞰することができる。

さらに、関連する事項について学年や学級を越えて相互に協力したり、報告を聞き合ったりする等、有効な活用方法が考えられる。

学年	第1学年 「自然プロジェクト」	第2学年 「夢プロジェクト」	第3学年 「命プロジェクト」
ねらい	地域環境の現状を把握し、改善策を追究する中で環境に働きかける力を育てる。	職業調べや職場体験活動を通して「働くことの意味」をつ追究し、社会の一員として自己の将来について考える姿勢を養う。	命と向き合う仕事に就いている方の追究活動を通して命の重みについて理解を深め、命を大切にする姿勢を養う。
一学期	①地域環境の現状を知ろう ・地域環境についてのアンケート調査の実施と分析 ・「干潟と人の暮らし」のビデオを視聴しよう ②自然の恵みを味わい、自然環境についての関心を高めよう ・海岸での潮干狩り体験 ・海辺の生き物の観察 ③地域の自然を守る中学生の活動を知ろう ・中学生による自然保護活動「RAT」の紹介 ④自分ができる地域の自然を守る活動を考えよう ・地域環境の実態調査活動 ・個人追究課題の決定と第一次追究活動	①「職業」について関心を高めよう ・活動内容の把握 ・「働く人」のビデオ視聴 ②農業と林業の仕事を調べよう ・山の学習の訪問先の農業従事者、林業従事者の話を聞こう ・森林組合による林業体験実習に参加しよう ③山の学習で農業・林業の体験活動をしよう ・尾根村での農業体験活動（田植え体験） ・関山村での林業体験活動（下草刈り、枝打ち、ナメコの植菌体験） ④職業適性検査から自分の適性を知ろう ・職業適性検査の実施と分析	①「命」について関心を高めよう ・救命救急士や看護師、石の活動を描いたビデオ視聴 ・命にかかわる新聞記事についての学級単位での話し合い ②「命」についての個人追究課題を決めよう ・追究カテゴリーの選択と個人追究課題の設定 ・個人追究の活動計画を立てる ③個人追究の活動を実施しよう ・書籍やインターネット、アンケート、インタビューなどの出の調査活動
二	⑤自然の中で生活実践に取り組もう	⑤自分の適性に合った職業を調べよう	③一次報告会を計画しよう

図8：当該年度の学年間の関連を示した資料

(3) 季節や行事など適切な活動時期を生かすこと

年間指導計画は、1年間を視野に入れて立てる計画であることから、季節や行事の流れを生かすことが重要である。地域の伝統行事や季節に応じた生産活動、歴史的・国際的な記念日など、学習活動を特定の時期に集中させることでその効果が一層高まる学習活動がある。また、職場体験など受け入れ先の要望に合わせて学習時期を設定する活動もある。

(4) 各教科等との関連を図ること

総合的な学習の時間の年間指導計画の作成にあたっては、各教科等との関連的な指導を視野に入れることが重要である。その際、学習指導要領で各教科等の内容を確認し、関連的な指導が可能な単元

については、相乗効果が得られるように実施時期や指導方法を調整するなどの工夫が望まれる。そのために、各教科等との関連を明示した年間指導計画の書式を工夫することも考えられる。

【関連教科等を重点的に示した事例】

図9は、関連させることが考えられる教科等の内容を重点的に示したものである。

月	総合的な学習の時間の主な学習活動	教科等
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 0 auto; width: fit-content;"> 昔の暮らし・今の暮らし 一昔の技「炭」を生かしてスローライフを味わおうー </div>	
5	①地域の暮らしに根付いてきた「炭」について関心を高めよう（8時間） ・昔の生活に欠かすことのできなかった「炭」について調べ、現代のエコ生活にも十分に活用できることについて理解する。 ・季節に応じて炭焼きに適した材料を集める計画やできあがった炭をどのように役立てるかの計画を立てる。	【社会】 地理的分野 エ身近な地域の調査 【理科】 第1分野(7)科学技術と人間 (ウ) 自然環境の保全と科学技術の利用 【技術】 A材料と加工に関する技術 ア. 技術が生活の向上や産業の継承と発展に果たしている役割について考えること イ. 技術の進展と環境との関係について考えること
6	②炭焼き名人森田さんから炭焼きの技を学ぼう（10時間） ・地域に住む炭焼き名人に品質の良い炭の焼き方を習い、火のおこし方、管理の仕方、炭の焼き方、焼き方のコツについて学び、実際に炭を焼く。	
7	③できあがった炭をどのように役立てるかももう一度計画を練ろう（4時間） ・できあがった炭を使って使用計画を作成する。それぞれの計画を基に意見交換しながら、全体としての計画をまとめていく。 ④炭の歴史や炭の活用法を調べ、計画に生かそう（2時間） ・計画立案の中で生まれてきたアイデアの実現可能性や炭のさらなる活用法を幅広く調査したり、情報収集したりする。 ⑤できあがった炭を生活に役立てよう（4時間）	【国語】 B 書くこと ア. 日常生活の中から課題を決め、材料を集めながら自分の考えをまとめること 【国語】 B 聞くこと エ. 必要に応じて質問をしながら聞き取り、自分の考えとの共通点や相違点を整理すること

図9 関連する各教科等を重点的に記載する年間指導計画（第1学年）の例

（5）学年間の関連を見通すこと

第1学年から第3学年を視野に入れ、学習課題や学習活動に重複や偏りがいないか、また学年の進行に応じた学習の質的な高まりや段階的な積み上げがあるかなど、学年間の関連を見通しておくことは重要である。（図8参照）

（6）弾力的な運用に耐えうる柔軟性をもつこと

実際に単元を展開していくと、生徒の興味・関心や問題意識が当初の計画と異なったり、想定していた生徒の姿と実際の姿との間に大きな隔たりが生じたりすることがある。そのような場合には、単

元の途中であっても変更や改善を加えることが望まれる。ただし、修正に際しては、実現の見通しが十分あるか、生徒が意欲をもって追究できるものか、新しい学習活動に質的な高まりが得られそうかなど、当初の計画よりも質の高い追究が可能かどうかを見極める必要がある。

(7) 外部の教育資源の活用及び異校種の連携や交流を意識すること

総合的な学習の時間を充実するためには、保護者や地域の人、専門家などの人的な資源や、公民館、図書館、博物館などの社会教育施設や団体、その他各種の団体などの組織的な資源を工夫して活用することが有益である。そのためには、日頃から外部との連携や協力を意識し、関係づくりに努めておくことが望まれる。

また、異校種との交流や連携を行う場合には、生徒に交流を行う必要感や必然性があるかどうか、交流相手にも教育的な価値がある互恵的な関係を築くことができるかどうか等の点に配慮する必要がある。

第3節 総合的な学習の時間と各教科等との関連

総合的な学習の時間と各教科等との関連を図ることは重要であり、年間指導計画においても両者の関連を意識した計画を作成することが考えられる。なぜなら、各教科等で別々に身に付けた知識や技能をつながりのあるものとして組織化し直し、改めて現実の生活にかかわる学習において活用することが期待されているからである。また、そのことが、確かな知識や技能の習得にもつながるとともに、総合的な学習の時間での学習活動やその成果が、各教科等の学習の動機付けや実感的な理解につながるなどのよさも考えられるからである。

このように総合的な学習の時間と各教科等とは、互いに補い合い、支え合う関係にあり、教育課程全体の中で相乗効果を発揮する。したがって、教師は、各教科等で身に付ける知識や技能等を十分に把握し、総合的な学習の時間との関連を図った年間指導計画を作成することが大切である。

1. 各教科等の学習を総合的な学習の時間に生かす

各教科等で習得した知識や技能等を適切に活用して、総合的な学習の時間における探究活動を充実させていく関連の仕方が考えられる。生徒が自ら課題を設定し、その課題の解決に向けて情報を収集し、集めた情報を整理したり分析したりして自分の考えとしてまとめ、表現していく中において、生徒は各教科等の知識や技能等を主体的に繰り返し活用していく姿である。

例えば、社会科の資料活用の方法を生かして情報を収集したり、数学科の統計の手法でデータを整理したり、国語科で学習した表現手法を使って分かりやすいレポートを作成したりすることなどが考えられる。また、理科で学んだ自然環境の保全と科学技術の利用に関する学習を生かして、地域の自然環境とそこに生きる人と生物の関係を考えることなども考えられる。

このように、各教科等で学んだことを総合的な学習の時間に生かすことで、生徒の学習は一層深まりと広がりを見せることが期待できる。

2. 総合的な学習の時間を各教科等に生かす

総合的な学習の時間で行われた学習活動によって、各教科等での学習のきっかけが生まれ意欲的に学習を始めるようになったり、各教科等で学習していることの意味やよさが実感されるようになったりすることも考えられる。また、総合的な学習の時間で行った体験活動を生かして国語の時間に依頼状やお礼状を書くなど、総合的な学習の時間での体験活動が各教科等における学習の素材となることも考えられる。

例えば、総合的な学習の時間で食や健康に関心を持った生徒は、家庭科における食生活と栄養や住生活の学習に前向きに取り組む姿が想像できる。また、保健体育科における健康の学習でも総合的な学習の時間で学んだ成果を生かして、深まりと広がりを見せることが期待できる。

■年間指導計画作成の手順と留意事項

表1は、先に述べた年間指導計画作成上の留意点を踏まえ、実際に年間指導計画を作成するための手順とそれぞれの留意事項の例を示したものである。

	手 順	年間指導計画作成の留意事項
I. 素案の作成	I-1: 学校の全体計画と関連付けて単元を配列した素案の作成	<input type="checkbox"/> 学習指導要領で総合的な学習の時間の「第一の目標」を確認する <input type="checkbox"/> 実施しようとする単元展開と自校の「目標及び内容」、「育てようとする資質や能力及び態度」との間に整合性があるか確認する <input type="checkbox"/> 実際に年間の指導計画の中に単元の予定を入れ込み、年間指導計画を作成する <input type="checkbox"/> 学年・学級の経営方針との関連を図る
II. 素案の吟味・修正・改善	II-1: 生徒の意識の流れの把握	<input type="checkbox"/> 生徒の過去の学習経験について把握する【(1)】 <input type="checkbox"/> 生徒の意識の実態に照らして、1年間の意識の流れに無理がないか検討する
	II-2: 単元配列の検討	<input type="checkbox"/> 年間を通して学ぶことが期待される内容が当該学年の生徒にふさわしいか検討する【(1)】 <input type="checkbox"/> 年間を通しての資質・能力・態度の育成が無理なく確実に進むように配列されているか確認する <input type="checkbox"/> 単元の実施が適切な時期に配列されているか検討する【(3)】
	II-3: 各教科等及び学年間の関連	<input type="checkbox"/> 各教科等の年間指導計画を把握し、関連について検討する【(4)】 <input type="checkbox"/> 他の学年を見通し、当該学年として学習活動の水準が適切か、下学年と比べて学習活動に質的な高まりや積み上げがあるか検討する【(5)】
	II-4: 地域素材の教材化及び外部資源の活用	<input type="checkbox"/> 地域の素材をとらえ、実地に調査する <input type="checkbox"/> 地域の行事等について、日程と内容の両面から関連を検討する【(7)】 <input type="checkbox"/> 地域の外部資源が適切に活用されているか検討する【(7)】 <input type="checkbox"/> 異学年との交流や連携が無理なく位置付いているか検討する【(7)】
III. 管理と運用	III-1: 授業時数の管理と運用	<input type="checkbox"/> 探究活動を行うために必要な時数が確保されているか検討する <input type="checkbox"/> 単元の途中では、実施した授業時数を確認し、教育課程上の授業時数が確保されているか確認する
	III-2: 年間指導計画の弾力的運用	<input type="checkbox"/> 単元の途中では、生徒の興味・関心や問題意識が追究課題や学習課題とずれていないか確認し、「ずれ」が生じた場合には、年間指導計画に変更や修正を加える【(6)】
* 【 】の数字は、『中学校学習指導要領解説（解説64-68ページ）		総合的な学習の時間編』の7つの配慮事項の各項目

表1：年間指導計画作成の手順の例